

## 土屋立候補予定者

### 自己紹介

湯河原町の皆様、動画を見てくださっている皆様、こんにちは。私は土屋由希子、41歳です。私は今、湯河原町議会議員の2期目を務めさせていただいている途中でございます。私は湯河原生まれ、湯河原育ち、父は宮上出身、そして母は吉浜の出身の者です。そして私は吉浜小学校、湯河原中学校、小田原高校に進学し、中央大学理工学部を卒業しました。

大学進学を機に20年間東京に暮らしておりました。東京では応用科学を学び、その後なぜか芸能関係の仕事に就きました。そして、大学時代に出会った旦那と結婚し、そして二人の子どもをもうけさせていただきました。子どもを持ったことで政治に関心を持つことになりまして、虐待防止、子育て支援などをしておりました。

全ての子どもたちが幸せであれば日本全体が良くなる、そういった志のもと政治を志しました。そして、子育て環境豊かな大好きな湯河原町で子育てがしたいと思い、5年前に家族みんなで湯河原町にUターン移住をしまいいりました。大好きな湯河原町でずっと子育てをしていきたいと思っております。

そのためには政治が変わらないと、子どもたちの笑顔があふれるような町にしないといけないなと思い、町議会議員にさせていただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### テーマ1

観光業について、基幹産業についてだと思いますが、今現在、湯河原町は観光地というふうに、温泉場や宮上区という方には観光地として成り立っておって、それ以外のところが住んでいるところというふうに、大まかに2つに分けられているというふうに皆さんもお考えだと思います。

富田町長が肝いりでやってくださった政策、温泉バッグ、そして宮上を発展させようという施策、それが一段落ついたところだったと思います。私はその良さを引き継ぎ、またそれをこれからどのようにしていくか、それを町全体に広げていく、そういったような考えを持っています。

例えば、湯河原町は湯河原町全体でもっと魅力的な場所がたくさんあると思います。福浦の港町の風光明媚な、そういった地区をもっともっと皆さんに知っていただきたい。幕山の自然豊かな環境をもっと楽しんでもらいたい。吉浜海岸の海、あのきれいな海をぜひ皆さんにも楽しんでもらいたい。

そしてハイキングコースもあります。町全体がそういった自然にあふれています。宮上や奥湯河原だけではなく、町全体を観光地として見ていただけるように、もっともっと広げていける、そんなふうに思っています。そして、そういった自然環境、そういったものを皆さんに楽しんでいただくことは、その後の移住政策にもつながると思っています。

観光だけじゃなく、住んでみよう、そういうふうに思ってもらえるように、町全体がそん

な町になっていくようにしていけたら素晴らしいと思います。そして、私はその観光だけでなく、移住政策をすることによって地域経済は回っていく、外からの資本、内から外に流れる資本ではなく、地域圏内が循環していく、経済が回っていくような仕組みづくりというのが大切だと思っています。

それは移住者を増やすことと、そして、これが肝だと思うのですが、子育て世帯を増やすことだと思っています。そういったことにも自然環境豊かな町を使っていただきたい。子どもたちが自然の中で大暴れできるような、そんな町になっていただきたいし、そんな自然を守っていききたい、そんなふうに思っております。

以上です。

## テーマ2

私は議員になった4年前からずっと湯河原町に助産院をつくろうというプロジェクトを進めてまいりました。これは残念ながらいろいろな紆余曲折がありまして、湯河原町ではなく、お隣の真鶴町さんにつくることになりそうということにはなったんですけども、子どもを産む場所がない湯河原町ではどうやって子育てをしていくのか、そういったことに真っ向から取り組んでいきたい。

そういうふうに考えまして、助産院プロジェクトを進めております。この助産院プロジェクトをはじめとする子育て政策をしっかりとやることによって、子どもの少なくなった町をどうにかまた子どもの笑顔あふれる町にしていきたい。それはもう私がまず初めに取り組みたいことではございます。

また、兵庫県明石市の泉房穂前市長という方がいらっしゃいますが、私はその方の政策がとても大好きで、まず子どものために税金を使って、そしてそれが町に還元されて、そして高齢者福祉につながる、そんなことができると思います。

また、私は議員になったときから実は訴えておりますが、町長車、議長車というような公用車ですね。その中でも自分が使うような町長車というのはすぐにでもカットできる、そういうふうに思っています。自分の足よりも町民の足になるものを、町長車の財源をコミュニティーバスなどの交通不便地域のバスに財源を注ぐ、そういったことはすぐにでもできると思います。

そういったことで、一つずつ一つずつ高齢者の不安を取り除くこと、それもとても大切なことだと思っています。財源は限られておりますが、ぜひ皆さんの知恵をいただきまして、そして自分みずからもこんなことができるんじゃないかと私からも提案をさせていただき、子どももお年寄りも住みやすい町にして、そして持続可能なまちづくりを目指してまいりたいと思っております。

以上です。

### テーマ3

公共施設のあり方については、さまざまな考え方があるとは思いますが、しかし、現実を見れば、これから人口が少なくなっていく湯河原町、建物は縮小の方向を目指さなければいけません。しかし、縮小の方向といっても、いろいろな縮小の方法があります。私はそこまで土地が要らないんじゃないかとか、また、それはハード面ではなく、ソフトを充実させればハードがコンパクトになっていく、そんな仕組みづくりをしていきたいなと思っています。どういったことかと申し上げますと、例えば一つ例を出します。役場庁舎には議場といって、議会が使う、議会が開催される日だけ使う議場があります。立派な箱の中に大層な椅子が並べられていて、とても豪華な造りになっている自治体が多いんですけども、実はこの議場、年間に数十日しか使われておりません。

湯河原町は特に平日しか使われていないのが現状です。例えば、庁舎を建てかえるのであれば、議場が使っていない土日、平日、もちろん平日も入りますが、そういったときにそこがコンサートホールになる。そんなことも発想としてはできるんじゃないかと思っています。実は他の自治体ではそういったことができる議場も存在するのです。こういったように、無駄を省いて皆さんの税金を効率よく使う、そういうことが建設の時から発想があれば、今後ずっとそういった無駄遣いなくなる、そういった発想があると思います。そのように今回庁舎の建てかえはしなくてはいけない。

そして公共施設も縮小していかなければいけない。だけれども、だからこそ、もっと効率化して、もっともっといい使い方ができるんじゃないかと私は思っています。そんな発想で公共施設を考えております。以上です。

### 最終PR

今まで私が話してきたこと、実は全部町民の皆様の声から発想を得たものです。私一人では考えつかなかったこと、それを皆様おひとりお一人と話すことによって発想を得て、そして形にしていて、そして皆様に発信している。

私はそんな皆さんの思いの寄せ集めのような政策を考えています。この発想で、これからの湯河原町もつくってまいりたいと私は思っています。今回、私は提案させていただきたいのが、一番の政策が町民提案型制度です。町民の皆様が湯河原町をどんな町にしていきたいか、また湯河原町の課題をこういうふうにしたら解決できるんじゃないかという提案、その発想をぜひお声をいただいて、それを皆様とともに考え、その中で一番いいものを選んでいく、そんな町民提案型制度、ぜひ私はそういったことをやっていきたいと思っています。今、皆様もご存じのとおり、湯河原町だけでなく、皆さん、他の自治体もそうですけれども、財源は枯渇しています。アイデアを出し合わなければ、持続可能な湯河原町はつくっていきけません。だから、皆さんの力が必要だと私は思っています。

そして、私はこういった現実を直視して悲観するのではなく、こういった課題にみんなで取り組んで、みんなで課題を解決していくというのは、とてもわくわくする作業だと思っています。皆さんのアイデアでとてもいいものがあったら、こんなに悩んでいたものがこんなに解決できるんだ、そんな発見があると思います。

そういった町にしていきたい。皆様ひとり一人と一緒に作る湯河原町にしてみたい。それが私の今回の一番の願いでございます。ぜひ皆様の発想、アイデア、そしてご意見をお聞かせいただければ幸いです。ぜひ皆さん、一緒に明るい湯河原町をつくってまいりましょう。

よろしく申し上げます。ありがとうございました。